浮世風呂

へ13
2620
4

門へ13
號3620
巻4

契情買豹之巻第四

小汀文庫

京の婦人オタのミい明見徒くしの光オ翁るかに
女ら思ふ家ゆり思ふ家の女豈性わうきせんや。
横ふ家財が妻女ごのやい形沈ア石資ゆるが
始て夫くなるよくめ。ど義閑なる女ゆ子。
た多々れた花しもがしど教と従て書ニ世
ゆ。ほ左家妻とけ。めづ女武のみちと
そげ。ふ士の手命ほ。も見ら れ ば ど 武 家
子オ人ゆるこ。ぎを生て面白ー
爺ちと形り多中ゆ来るきゆ。に侍ゆと
ふて字りけるが形沈の手ア今義が翁と
て面白新るるとゆ。ゆるこしのゆ。ゆ事
かとしそんとぶゆるとゆ。ゆ

鎖入れば、あいはたらきごとに、
うるこ。二人の妻又者の孫たち、合めいぶつのやこ二人
の妻に対面して、ぜひの接拶をして、祝儀の盃を
海上に、おなじ盃をこの白ひ知で世をとろに納
さ媒婦の服を出せ、母のろこ祝て、秘
蔵に、箱に立て、住をと、絵とを、ひろ肱ろ和と
して、世話をあれば、大きかをこ母やり、母の命に、
きと、ひとつ、亜、母喪ぬ、きらこ、泉、いろ、ぎれば
上下に、嫁入を、知結ぶよ。秋ろ上の命日を、吟
味して、嫁にろも、結をを出せのろとろ、ゆろ。
二人の妻は、枕の、系図に、く、絵ろね方の母の命日
を、ゆて、唐ろ、無名のいましめ、ぬ次の、祝日とこめ。
ひ、の、策に、異て、ぬ、母ひき、祝日、ぬ、
ろ、ろの、桜と、拝、ろ、ろの、品、耳、も、入ゆ、に。

いてきれよ。ろ、に、ろ、ぬ、系図、ろ、ひ、ま、ば、て、ま、ろ、の、一
系、信、代、の、ま、ま、の、ろ、命、日、ろ、ぬ、に、門、命、方、に、ろ、ま、
命、ひ。母、ろ、ろ、の、ぬ、人、峰、方、の、絵、ま、の、ろ、ま、ま、ま、て。
ま、ろ、ま、ろ、歌、事、民、の、命、と、ま、に、絵、日、に、ま、ま、ば、ま、ま、
新、ぬ、ま、系、図、と、ま、ま、れ、ま、ろ、れ、ば、ま、ろ、の、ゆ、ま、て、ま、い
母、れ、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
の、力、と、ま、で、ま、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

[illegible]れて[illegible]さん人のひいらうあるれば系
が家も由緒もけだかいに[illegible]さてうつぶかえの方
の[illegible]まうまれてきぶ方辞退していやがれいハテ
御室はなぜうまれてきぶ[illegible]の男の面倒を[illegible]れてきぶ
が[illegible]の家の消息[illegible]るれば[illegible]人者ぶの紹介
けるのといつまるれの御宜いいぬるぶいづれ[illegible]
やされなぶ書毎ちまうてやさるれば[illegible]せいとうひ
うるぶ[illegible]てきぶ[illegible]ぶ[illegible]るれぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]きいぶぶたれの毎ごと[illegible]家[illegible]
上ろもぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
市毎[illegible]れの市ふとそしていれば[illegible]ぶ[illegible]
さうぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
が[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
一[illegible]れ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

事家のはたれ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
りけ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶとしぶぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
とそ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶのぶりぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
いゆぶぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
てけるいぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]

まをくだりくだりあるほどに北の二つ松といふ所
にぞ出でたりける。わがこの系図をたづねてみるに
はじめは源氏の系図なり。源氏方滅亡の時、長男
幼少なりしかば、上総の介の妻にてありしが、
その夫上総の介の前妻の子、武蔵の国の住人
に相関白云ふ人、養子として今世の家にはかの
者とつかさねとて、妻はこれを見て、
出でぬ。母のおもひ物思ひ、ひとりぬ。
物思ひ、ものとなりて、その妻、さらぬ
いづくにかいるべきあれば、上総の妻志賀の
上つかたにいつかはいつかはと、物思ひて、
わびけるに、ものとりやとられんと、
とひもやらぬ。のちくるしい関白の郎
てつかさねをぬきもの、
物思いつひぐしとつぎてぞ来るき年ぞ
こぶのやうにあり。時手と村岡上総の介の
物思ひ、時手三百町の所、別今の与市の
やうこの中に小初と言ひて女童と動作して、
子の別家と、西西に
いなか上総の国、
社祈と祭りて、
時手の夫婦と、
名組のはしぶ、
四郎ばかりと、
病気のあり、
ぶしぶ、
まうとん、
あはずきにて、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つくる意味で、俗間の業と伝ふる九月に出る。
づけてくべきものなれば無然出るものとも同
なれば毋や母づきの根ざしの作合めいぶ出るい
いたるなどかくして与るが物ぐまたがあるも。
次の段せきの根ざしが世びたるね望ばひ
めさるをみてわしぶ我と無気にて出とつ母んとおふ
毋の元のつくりさいさみ根びぶ手あれざるたびし
のたいと女下さびぶ毋出ふ手れとひぶの
神手の考段と知ぶ物ふるさいづるれ根ふる
しぶ出の元月根世の考めてくびしいぶ考んとの
ふ不とさるるれ考ふ結ふ考くに新色ぶ事考ふ
らぶいも事の陸ふまり炭紙とび考周ら。
まれの考毋ふて炭紙ひに入る作いぶ世全の
月の考社産と知ふ世ふ考ふは遠分か

新しあふ向ふるんぶ毋ふ考ふ屋と出ふ炭
紙ふ月ふ考ふ紙ふ考ふるとふ百さびとふ毋ん
づのやいふ女元て出ふ考ふは考ふ用ふと
ふふひふ紙ふ毋ふと毋ふそんとふ紙の元ぶ金ふる
[才二] 毋ふひる紙ふ愛ふふふ根紙の系考
一方ふ考一方ふ不考ふ考ふ月ふ毋ふ毋ふ枝の中
しふつふ考ふふふ毋ふ世の中ふ月ふる枝の
根ふ一本ふ咲ふの考ふ根ふ考ふ事ふ出ふ考ふ
さまふと拍ふひふふふふ毋ふ考ふ毋ふと
ぶふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

小九郎と云人ありけり其家の[illegible]
[illegible]
[illegible]

のくみあげ。重兵衛てんぐひとりすけ手をくがめこと
源氏物の方へ安なきに出るあげく家中の男女
落せらるもいかに。
き甲賀の郡といへれて。秋蓬と云いつぐ。計の和女
て。只今法度のあて。出さずんとも。引て出
ね民系図とおもふ。絵ものがたりさげまれて。耳
もゆるさるそうほで。面と共に毋じもの中と
あふしあてられ。ろ計出る。会にいこぎ。
ゐていぐきうさで。ぎ。ぐくぞ。ぐくぞ。ぐくぞ。
とぐぐ。ぐ。ぐ。

おどろきやがて元のあんぎやうに弱りはてそのうち
ほと動くもいとなかなか大きに肝をつぶされぬ
ふたりとそのうのけどの仕方身もゆるがるものと
ようけ所ちがの動きとあるとそこなさ
いや毎のうはいの弱みよりも分おぼろくて頼みの腐敗
世ちがうさすが無方の血脈などあるとけるげて
弱みのうとよりけ面目とすぐ働きでかちく。
こしうはれかまくて私と手まくるもとうの面の広い
ようにうまくもつれて弱くそうれてひいひとつの方
ゆれのほうかどやう身のさもれい理解弱みの広
のるこいの弱点のはまるまるが氏系ながら弱くそ。
目ばとを探るけ典型といやあ弟ばけ弱とつぎ
れとそのや出でも変合は悟るあるぬぎまるけ
ものまそんてきひあてきるばけるそれの弱ま

さんがい女の男でゆうてあるも私みと無いうんと
あがめと家老のようもれいけ
失いと心の屋の中さと言ーゆもあ
まていう仮情あるれいけ
男の弱ば弱変合てう
及と新ゆ也ちばけ面
ふけいそしもがるあるねいけゆく中
あがアのこの名を稼ばと言ようがう面
弱とわいにアるさうけ
方の一部分中比分部れ
てもそとわいるけ
言は及にあるう系分
くそも中部分の内弱いの
がうえのず弱さ分目と

人乃わかはこの世のはかなきまぼろしなりと
られぬる後、二年ばかりつゆ露ばかりの
あはれ一命を捨て働くべき。亡君はもとより
はかなき世をいとひ、とかくやがて出家
なれば、人間のはかなきことを思ひ
こしらへ、さてこそ、あまの出一門あり
新仲がみ、信濃の国へ流れ、
のふるさと。建礼門院は怪しきまでおわ
と思ひ、人の本意のあるのを、
たがひ、のちのちは、
つきまいらせ、
本望の思ひ、
だやかに、
ひねらるべしとぞ

たてもまゐらせ、
おのおのさぶらひ、
こしかたゆくすえ、
なげかんずるなり。
きのうまでは、
害せんとたくみ、
ゆくすえ、
なげかんずるのみ。
さぶらひ、
なのみ、
なのみ、
とぞ、
なのみ、
とぞ、
神倉峰の神色、
とぞ、

感ぜんとて乃ち[illegible]
及び。母方の親間と雖も方と云へば。[illegible]
対し[illegible]
うめどもとく[illegible]
あ人が別腹となりて[illegible]
[illegible]
べ。[illegible]
のさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

なるぬ紙をとりてうがのぞきもとりぬぐまをつい出てお
いぬぞやといてはいぬぞやとかとい無紙のかいゆさ行る也
ぞ巳まのくるぞ考ぞいぬぐさ義ぞ紙学紙のさぐ
けぬ男れひ今者も紙ぬ考紙とん様て出る性
る紙ぬくてみてばこ考るかけりてこ人合るば。
まあこれてのけるぞ紙いるとあれてよい紙をた
さてはこの紙ぞの中たさぐきこ紙ぞけあ
ぬ紙いぬこいぬぐのぬらねあをこんの葉ぞかさ
紙てぬぐるいいぬぬされこ夫婦の紙と切てのけ
るぞとぞきびいれいいやてぞてでこひる母のぞ
せんこあきぞ考ぞ入るまるとて来ぞる富とあ。
ぬひこりあること学ちてあるこ前ぞこうあ
紙ぬ考紙のみこぞ男あのこれこ仕ひまるて我紙
のけはあぐ考紙るくぞこのこれんこあぐぞこうこ

実でのこるもぬたてぞ四とのぞひて言こと考ぬ
眼こるきるこ色いるこてねたぞ紙ぞぬぐとひるぬけ
こる考掃こきあ考紙あやこるぞ紙のこて見るこ
もく考考た紙ぬぐこ紙てるぐこるこ考紙ぞこ
ここひこ考るぬこ今んぞこいこやのあひこるけこぞ行こるこ
て考ぐこる考ぞ無いけぬこ考こるこ考ぞひ出て注てけ
ぬこぐこるくぐ紙ぞく紙ぞけ紙てこぐこ
ぬこるこる考紙の紙ぞ紙こるこ考ぞけるこい紙ぐこ考ぞて
ぐんぞ無紙こぞこて注こるぐこるこぞ紙い洞ぐぐ区
ぐこるれば四人ぞゆるこるこ考紙ぞこるこ紙こるれど。
ぞこいぬこる考ぞ考こるこぞけこ注ぞ考紙ぞ紙
紙こ男こ人こてぞ紙ぞこるこ考ぞこるこぞけこぐこ
今ぞこるぞ紙ぞけて紙こるこぞ考こるこい紙こ考こるれぐこ
られこるこぞ考こるこ無紙ぞけこいこ考こるれぐ紙こ

みてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

ゆるされて海へもぐり側ちてゝ[illegible]仕つる也。

みそぎとは也女のそこにてぱゝやづかひ也。

みづがきは[illegible]とうけおそれといてゞきてる山の

[illegible]ずれの方い[illegible]ものそふ

せざる程ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

U
32266

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一珍本